芽出しの方法や環境をいろいろ変えてみよう

芽出しの方法や環境を変えると、芽の出方やその後の育ち方に違いが出てくるのでしょうか。その違いを調べてみましょう。

実験と観察の項目■例

- 芽が出る頃の水の温度を変えておいて、育ち方の違いを見る。
- 日なたで芽出しをするもの、日かげで芽出しをするものを分け、比較してみる。
- 水を吸わせたもの、霧吹きだけ毎日かけたもの、ときどきかけたものを、それぞれ育てて芽の出方を見る。
- 水を毎日取り替えたもの、ときどき取り替えたもの、取り替えないもので、それぞれ種もみを育てて芽の出方を見る。

実験と観察の方法とポイント

実験 稲の芽出しの時、温度の違う場所に置いて水温を変化させ、計りながら育ち方の違いを調べてみましょう。

方法 水に入れた種もみを、冷蔵庫の中、日なた、日かげ、湯の中などに置いておきます。

観察 水につけてから芽が出るまでの日数の違いを調べてみましょう。日が当たるところと日が当たらないところとで、出てきた芽の違いを見てみましょう。

結果 日なたで育てたぬるめの水にひたしておいた種もみが、よく芽を出します。ただし、温かい日かげでもよく芽を出します。日光は特に必要ありません。

稲が芽を出すタイミングを、農家の人に聞いたり、本で調べたりして、あらかじめ知っておきましょう。

ポイント

稲はもともと熱帯地方の植物です。そのため、芽出しさせるのに適した水温は25～30度を目安にするとよいでしょう。